

ビデオ部門で全国1位

放送委員会 2B 佐藤花緒

7月31日、8月1日の2日間、全国高校総合文化祭滋賀大会放送部門が開催された。その中でも、本校からは昨年の秋の県大会で代表に選ばれた朗読部門1人、制作部門2作品がエントリーした。そして、ビデオメッセージ部門に出品した「ただ、ここに在り続けたい」が優秀賞(1位)を受賞し、結果を得点化したものを都道府県ごとに集計し総合得点を争う総合賞では、秋田県勢が最優秀賞にあたる文部科学大臣賞に輝いた。文部科学大臣賞受賞は本県初となる。

「ただ、ここに在り続けたい」は、上小阿仁村で開催される芸術イベント「KAMIKOANIプロジェクト秋田」に焦点をあてたドキュメンタリー番組である。限界集落で行われているこのイベントに込められたメッセージを、自然豊かな村の映像とともに伝えた。今作は、先輩方が3年前から続けた取材の集大成ともいえる作品となった。

今大会を経験し、委員の目

指すベクトルが全国大会に改めて確かに向かったことを感じた。新体制を迎えた私たちは、11月に今年度の県大会が控えている。先輩方が成し遂げた偉業に対する大きな重圧を抱えてはいるが、受け継ぎたいという思いも強く持っている。委員全員が結束して大会に向かい、来年度の広島大会へ駒を進められるよう努力を続けていきたい。



初の文部科学大臣賞に輝いた秋高を含む秋田県勢

甲子園のその先へ

硬式野球部前主将 3A 菅原一輝

長い歴史を感じるオールドスタイルのユニフォームに初めて袖を通した時、高校野球が始まってから100周年という節目の年に秋田高校で野球ができたことを改めて幸せに感じました。そして秋田高校の歴史を築き上げられた先輩方から繋いだ意志を強く心に刻みました。

夏の県大会が始まる前から、経験したことのないほど多くの取材を受けて今大会への意気込みを聞かれました。私はその度に、秋田高校は毎年甲子園で優勝するのが目標であり、100年だから目指すのではありません、と答えています。しかし、迎えた最後の夏は

結果を出すことができず、1人で入場行進をするのが決まった時のあの気持ちは言い表せないほどのものでした。それでも秋田高校、全国の応援してくださる方々の代表として行進するとう、人生で二度とない経験ができる幸せを前向きに捉え、胸を張って臨みました。球場内に響く歓声、土を踏んだ感触、そして何と云っても高野連会長の挨拶は決して忘れられない記憶となりました。全国から勝ち上がってきたチーム、そして多くの高校野球ファンが集まった中でお話ししてくださったのは、第1回大会での秋田中の勇姿についてでした。私は暑く、そして暑い甲子園で1人、鳥肌が立っていました。

私の今までの体験が、本当の輝きを放つのはこれからだと思っています。そのためにも野球を通して学んだことを継続し、努力します。また、この経験が後輩に受け継がれ、新たな秋高の未来、そして勝利を築き上げていく一つのきっかけとなつてほしいと思います。



YADOMEの復刻ユニフォームで入場行進する菅原一輝主将 写真提供・秋田魁新報社

サグロード株式会社

人材育成本部 本部長
兼 システム開発本部 部長

小林 千裕
(昭和60年卒)

〒104-0033
東京都中央区新川1丁目3番10号(旭ビルディング)
TEL (03) 3553-1409(代) FAX (03) 3553-1407
http://www.succ.co.jp
E-mail: c.kobayashi@succ.co.jp

**みやざわ
ペインクリニック**

Miyazawa Pain Clinic

院長
宮澤 一治
(昭和60年卒)

拠点センター アルヴェ4階

ピアノ調律師
明 珍 一 弘
(昭和60年卒)

〒010-0802
秋田市外旭川字神田833-3
090-2364-0883

Abbott
A Promise for Life

エリアマネージャー
保坂 聖司
(昭和60年卒)

アボット ジャパン株式会社
EPD 医薬品事業部
秋田市中通2丁目4-19
商工中金・第一生命秋田ビル8F
0120-964-930